

OJT研修兼メンターチーム会②

前号に引き続き、若年教員チームが行っているメンターチーム会の様子を紹介します。若年の先生方の気付きや、学んだこととして捉えていることには、毎回、はっとさせられ、また、新鮮な気持ちにもさせていただいています。また、講師をしていただいている先生方からも毎回心に残る言葉をいただいています。

校内研で松岡先生の授業を参観して学んだこと

readiness

準備(授業の前に)を大切に!!
*信頼関係等

- ・ 数学的用語を生徒が自然に使っていた。本時まで、身に付けさせたい力として意図的に何度も繰り返し生徒に求めてきたことが伺えた。
- ・ 授業を進めるための生徒とのやり取りのテンポが良かった。生徒との信頼関係を築くことと分かりやすく答えやすい発問をすることの大切さを学んだ。
- ・ 数字と公式だけを用いて説明するのではなく、生徒にとって身近な具体例を出して、想像しながら答えられるようにしていた。生徒の身近なものに置き換えて理解度を高める工夫を学んだ。



approaching

学習に向かえる手立てを工夫して!!
*規律、雰囲気、自己肯定感等

- ・ 意見を言い合える雰囲気づくり。
- ・ 生徒同士の協働的な取組。
友達同士で話し合いや教え合いができるペアで座らせている。
- ・ 褒める、笑顔。
- ・ 生徒のつぶやきを拾って褒める、認める。

active

生徒の思考を意識して!!
*発問に対する生徒の反応を具体的にイメージ

thinking

授業のポイントできちんと思考!!
*教師側が明確に持つこと

- ・ 生徒に思考させたいことが明確だった。
- ・ 明確な目的と意図。
- ・ 授業のポイントを押さえていた。

- ・ めあてからまとめまでの展開に工夫。
- ・ 生徒の発言からめあてをつくる。
- ・ 子供たちの発言を拾いながら授業を展開していく。
- ・ 生徒が考えたいような発問の工夫。
- ・ 生徒が主体的・対話的になるような発問の工夫。
- ・ 答えに対して、「何をしたか」「なぜそうしたか(理由)」まで追求して、生徒に納得してもらう工夫をしていた。

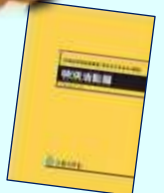
講話依頼内容

- ①特別支援学級在籍の子供がいる場合、生徒たちにどう説明するのが正解か。
- ②クラス内で生徒同士のトラブルが起きた場合の対応や大切なことは?
- ③毎日欠かさずすべきことは?
- ④これだけは許さん!ということとは?

学級経営について



依頼の講話に入る前に、田村先生からまず、学級経営計画についてのお話がありました。学級経営計画は1年後の子供たちの姿を見通して作成したものであり、その前段には学年経営計画、学校経営計画があること、学級経営計画も学校で目指す目標に向けて取り組んでいることの説明があり、何に立ち返るかの再確認ができました。また、「学習指導要領解説 特別活動編」(p41)に書かれていることも説明しながら学級経営について大事にすべきことを話していただきました。



- ①に関して ・ 「これが正解」というものはないが、家庭の意向も聞いた上で、その生徒のことを学級で伝えると良いのではないか。他の生徒にとっても、まずは「知る」ことが大切。そのためには小学校との連携も大切である。
- ②に関して ・ 一人で対応しないこと。そのための組織である。また、いろいろな対応を考えるが、その考えたことや今に満足しないこと。悩む必要がある。「人」を相手にしている職業だから。
- ③に関して ・ 「挨拶」や「生活日誌を見る」、「目に付いた行動はその場で指導する」等、当たり前のことを当たり前にと、同じことをずっと続けてすることが大事である。
- ④に関して ・ 「こういう子供たちにしたい」という学級経営計画等の目標からブレた時には許さない。大事にしたいことを生徒に伝えていく。